

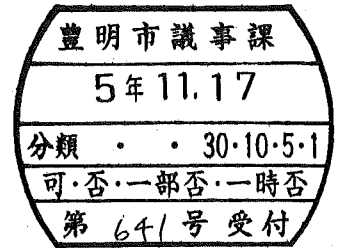
<参考>様式第2号

令和5年11月17日

豊明市議会議長 殿

## 行政等視察報告書

議員名 青木 けんじ



令和5年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
令和5年10月24日	広島県 廿日市市	「議会用タブレット端末の導入」について 別添：報告書

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

令和5年度  
会派清和 行政視察報告書

令和5年11月17日  
豊明市議会議員 青木 けんじ

令和5年10月24日(火)

広島県廿日市市 「議会用タブレット端末の導入について」

□タブレット導入の目的

- ①情報の迅速化
- ②情報の共有化
- ③ペーパーレス化(紙配布を無くす)
- ④利便性の向上
- ⑤事務作業の効率化

□導入及び運用状況

平成30年9月定例会(試験運用期間)

- ・議案等 紙と電子データ(PDF)の両方を準備・使用
- ・一般質問時の提示資料をデジタル化開始

12月定例会(本格運用開始)

- ・議案等 すべてを電子データ(PDF)にて運用
- ・事務局から電子データ(PDF)の一斉配信
- ・タブレットで閲覧(紙資料なし)

※一部、例外として

➢議事日程・次第書

議事運営上、進行状況が分かりにくいいため紙配布(データもあり)

➢予算書・決算書

付属資料など、複数の冊子にわたるため冊子配布(データもあり)

審議、審査も冊子ベース

➢冊子媒体のものは、各自が使いやすいものを選択

令和4年9月1日タブレット端末更新(iPad Pro 12.9インチ、貸与品)

令和2年及び3年に更新を考えるも半導体不足の影響で令和4年度に更新

□導入及び維持に係る経費、端末の仕様

議会タブレット導入(議員28台、事務局4台、予備1台)

平成30年度 約430万円(端末契約料、付属品、初期設定、研修費、維持管理費等)

機種:iPad Pro12.9インチ 64GB

(Wi-Fi+Cellularモデル、庁舎外でも使用)

平成31年度 約300万円(維持管理費)

機種:同じ

令和4年度 約190万円(議員28台、事務局9台)

(新規導入分初期設定、維持管理費)

現在3年レンタル契約(NTTdocomo)

□通信環境確保・電源の確保、タブレット端末の通信方法

➤通信環境の確保 (Wi-Fi 工事)

- ・平成 29 年
- ・平成 30 年 (アクセスポイント 4 か所)
- ・令和 1 年 (全協アクセスポイント)

➤電源確保 (AC 電源工事)

- ・議席等への AC 電源設置

➤通信方法

- ・議会棟内は Wi-Fi 環境を整備し、パケット代は発生しないが、屋外使用ではパケット代が発生する。(端末使用は Wi-Fi 環境下で使用を許可、4G 回線下の使用は緊急時以外避けるように努めることとする)
- ・一人当たりのパケット通信容量は 2 ギガ/月としており、動画閲覧等で契約パケット要領を超えた場合は、実費負担とする。

□運用規定及び使用基準 (平成 30 年 9 月から適用開始)

運用にあたり、運用規定及び使用基準の事務局作成案を PT メンバーが調整し、策定。その後、議会運営委員会で決定及び周知。

□導入後の状況

- ・議会事務局からの連絡方法は、FAX からすべてタブレットのプラスメッセージに同時送信 (令和 5 年 4 月からは G メールに変更)
  - ・配信するもの (特定のフォルダに格納)
    - 招集通知、執行部からの情報提供、委員会資料などのデータ格納場の通知
- メリット : 一斉送信により、情報伝達のタイムラグが解消  
デメリット : 送信したデータの閲覧タイミングの個人差

□導入後について

- ・タブレット端末使用に関する費用に関して、これまで全額公費負担だったものが平成 31 年 4 月より政務活動費で負担することに (レンタル費用、回線費用、端末補償オプション)
- ・効果として
  - 紙資源の節約
  - 事務連絡の効率化
    - ⇒議員連絡の作業時間大幅短縮
    - ⇒議案印刷が不要となり執行部の事務軽減
  - 経費圧縮の面では、紙代とコピー代が大半

□今後の課題

- ・Wi-Fi のさらなる整備。議場で一斉に使用した (55 名同時) 場合につながりにくい
- ・使用頻度の個人差
- ・複数の資料の同時閲覧ができない。メモが取れない。(端末 2 台使用は不可)
- ・端末が大きく携帯するには重い
- ・G メールに気付にくい
- ・4 年前後の更新が手間、更新料の負担が大きい

※効果的・効率的なタブレット端末の活用に向けグーグルアプリの運用を検討中

□その他

ひろしま避難誘導アプリ「避難所へGO!」について説明をしていただいた。  
市民や観光客などに必要な防災情報をリアルタイムに取得・確認し速やかな避難行動がとれるように令和3年に導入したアプリ。  
日本語のほか、英語、韓国語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、フィリピン語、ベトナム語に対応している

□所感

四日市市も、本市と同様な考えからタブレット端末の導入に至っている。  
タブレットとの活用については、苦手な方もあり導入当初は苦労していたようだがタブレットの触れていることで、今では操作にも慣れてきたとのこと。まずは触れ続けることからが大事である。  
一番心配される情報漏洩などセキュリティーの点では、通常の仕様でも安全性が担保されているが、万が一タブレットを外部で紛失した場合も事務教務のメイン端末操作が可能になっている。データ更新も利便性も重要だが、安全性が最優先される項目である。  
紙資源の削減自体は思いのほか少ないが、その他の面で十分活用のメリットがあることも理解できた。  
導入する場合の課題としては、Wi-Fi環境の整備、電源確保、更新費用をどうするかを考えることになる。  
「避難所へGO!」に関しては、初めての滞在など土地勘がない人でも避難誘導されるアプリであり安心・安全な避難ができると思われる。

